

## 一編集後記一

食の安全や安心に対する消費者の関心の高まりにつれて、堆肥などの有機質資材を使って栽培した作物に対するニーズが増加してきています。この動きの根底には、化学肥料や化学農薬の過剰投入が原因と考えられる環境汚染や健康に対する害への反省や反発があるように思います。たしかに、農地への適度な有機物投入は地域における物質循環を促進し、また土壌の肥沃度を維持するために重要です。それゆえ、消費者が有機物に目を向け始めていることは大いに歓迎すべきでしょう。ただし、有機物の施用がなぜ大切かということが、消費者だけでなく生産者にも良く理解されないまま、単に「有機物なら安心」というムードだけが先行している気がしてなりません。

農地への有機物投入は本当に良いことばかりをもたらすのでしょうか。一般に、有機物に含まれる養分には速

効性の画分が少ないため、化学肥料と同等の肥効を期待しようとすると、かなりの量を施用する必要があると思います。多量施用を継続すれば、当然、有機物は土壌へ蓄積し、硝酸や亜酸化窒素などの環境負荷物質の給源となり得ます。その一方、有機物の施用は土壌への炭素固定という側面もあるので、地球温暖化抑制には効果的という意見もありますし、少量の施用では土壌の炭素含量は増えないという話も聞かれます。

有機物施用の意義や影響を土壌の物理性、化学性、生物性それぞれ単独の観点からだけでなく、プラスとマイナスの両面をあらゆる方向から総合的に評価することが必要ではないでしょうか。そんな企画を考案中です。会員の皆様からご意見をいただけますと幸いです。

(編集委員 中辻敏朗)

### 土壌物理学会

#### 事務局構成

会長	長谷川周一 (北海道大学)
副会長	谷山 一郎 ((独) 農業環境技術研究所)
庶務幹事 (庶務)	成岡 市 (三重大学)
〃 (会長付き)	倉持 寛太 (北海道大学)
会計幹事	柏木 淳一 (北海道大学)
編集幹事	岩田 幸良 ((独) 農業・生物系特定産業技術研究機構)
会計監査	矢沢 正士 (北海道大学)
〃	渡辺 治郎 ((独) 農業・生物系特定産業技術研究機構)

#### 編集委員会

委員長	石渡 輝夫 ((独) 北海道開発土木研究所)
委員	柏木 淳一 (北海道大学)
	加藤 邦彦 ((独) 農業・生物系特定産業技術研究機構)
	北川 巖 (北海道立中央農業試験場)
	三枝 俊哉 (北海道立根釧農業試験場)
	取出 伸夫 (三重大学)
	永田 修 ((独) 農業・生物系特定産業技術研究機構)
	中辻 敏朗 (北海道立中央農業試験場)
	中原 治 (北海道大学)
	橋本 均 (北海道立中央農業試験場)
	横濱 充宏 ((独) 北海道開発土木研究所)

土壌の物理性 第101号 (会員配布) 2005年11月20日発行

#### 発行 土 壌 物 理 学 会

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目  
北海道大学大学院農学研究科  
土質改善学分野内

電 話 011-706-3641

E-mail spsyomu@ml.affrc.go.jp

URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssp3/>

銀行口座 北洋銀行 北七条支店 (店番号312)  
普通 3783627 土壌物理学会 会長 長谷川周一

郵便振替 口座番号: 01350-2-40943

加入者名: 土壌物理学会

編集委員会事務局 (投稿原稿送付先)

所在地はホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssp3/>)で最新のものを確認して下さい。

E-mail kibyosi@ml.affrc.go.jp

印 刷 創文印刷工業株式会社

〒116-0011 東京都荒川区西尾久7-12-16